

# 「看護婦」のイメージ形成に影響を及ぼす要因の分析

根 岸 茂登美<sup>1)</sup>      加 城 貴美子<sup>2)</sup>

## 要 旨

看護学生の「看護婦」のイメージ形成に影響を及ぼす要因として、就業経験との関連性について明らかにする目的で、入学前に就業経験を持つ割合の高い看護婦2年課程定時制の学生96名を対象に調査を行った。その結果、「看護婦」のイメージ形成と先行する就業経験との関連性が明らかになり、今後の教育への示唆を得た。

結果は以下のごとくであった。

1. 学生の平均年齢は他の課程の学生に比べて高く、年齢構成の範囲も広い。
2. 学生のほとんどが高等学校卒業の一般学歴をもち、多くが准看護婦課程の就学機関として准看護婦養成所を卒業している。
3. 学生のほとんどが2年課程入学後も勤務している、いわゆる勤労学生である。そのうち病院に勤務する学生の割合は、診療所に勤務する学生より多い。勤務している診療科としては、内科、精神科、2診療科以上の混合、産婦人科の順である。
4. 看護職決定の時期として、「高校生」、「中学生」が約半数を占めている。
5. 看護職選択理由は、「資格取得のため」、「社会に貢献したい」、「身近にいた看護職の影響」の順である。
6. 2年課程への進学理由は、「准看護婦よりもさらに学習したい」、「看護婦資格取得のため」が大半を占めている。
7. 2年課程入学前の就業経験は、約半数が准看護婦として働いた経験をもち、その期間は3年未満が約半数で、10年以上の学生もいた。
8. S. D. Scale による就業経験別にみた「看護婦」のイメージは、15項目の形容詞対尺度に有意差がみられた。
9. S. D. Scale による准看護婦としての就業期間別にみた「看護婦」のイメージは、10項目の形容詞対尺度に有意差がみられた。

キーワード：2年課程定時制、就業経験、S. D. 法 (semantic differential technique)、  
「看護婦」のイメージ、イメージ形成

## I. はじめに

看護学生の「看護婦」のイメージ形成に関する研究はこれまでも行なわれている<sup>1) 2) 3) 4)</sup>が、イメージ形成に影響する要因として、先行する就業経験との関連性から検討したものは少ない。イメージは、先行経験である事柄に対する評価の結果が情緒的に想起されたものであるといわれている。そこで、就

業経験と「看護婦」のイメージの関連を分析するため、就業経験をもつ割合の高い看護婦2年課程の学生を対象に調査を実施した。1995年現在、全国には431校の2年課程があるが、その教育機関は看護短期大学をはじめ、高等学校専攻科、全日制または定時制養成所、通信制がある。このうち特に定時制養成所に通う学生は、入学前に就業経験をもっている者が多いことから、今回は2年課程定時制養成所の学生を対象とした。イメージ調査には、「対象に認識する情緒的意味すなわち対象をめぐって表象する情緒的イメージ（観念の感情的側面）」を測定する

1) 湘南看護専門学校

2) 川崎市立看護短期大学

Table 1 対象の年齢・性別

n=96

grade	number	年 齢			性 別	
		$\bar{x}$	SD	range	man %	female %
1 年生	n=34	25.18	5.15	19-38	4.2	31.3
2 年生	n=34	25.29	6.03	20-45	3.1	32.3
3 年生	n=28	25.00	3.21	20-33	2.1	27.1
全 体		25.17	4.98	19-45	9.4	90.7

一手法として知られている S. D. 法 (semantic differential technique)<sup>5)</sup>を用いた。その結果、今後の教育に示唆を得たので報告する。

## II. 研究方法

1. 調査対象：2 年課程定時制学生 1～3 年生104 名中、研究に同意の得られた96名。

2. 調査内容：

1) 対象の属性 (1)年齢、性別 (2)学歴 ①一般学歴 ②専門学歴 (卒業した准看護婦課程の就学機関) (3)現在 (2 年課程入学後) の勤務状況

2) 職業意識 (1)看護職決定時期 (2)看護職選択理由 (3)2 年課程進学理由

3) 就業経験 (1)2 年課程入学前の就業経験 (2)准看護婦としての就業期間

4) 「看護婦」のイメージ

3. 調査方法：半構成的質問紙による集合調査

4. 調査期間：1995年12月13日～12月20日

5. 分析方法：対象の属性、職業意識、就業経験について集計し、「看護婦」のイメージ測定の結果と就業経験との関連を分析した。統計学的分析には汎用統計学パッケージ SPSS を用い、t 検定、 $\chi^2$ 検定を行った。

6. 尺度の説明：「看護婦」のイメージを測定する方法としては S. D. 法を用いた。S. D. 法は、Osgood, C. E. によって開発され、対象 (本研究の場合は対象=「看護婦」) に認識する情緒的意味を測定する一手法でイメージの測定分析に適している。この S. D. 法を用い松村ら<sup>6)</sup>、井澤ら<sup>7)</sup>及び永田<sup>8)</sup>が使用した形容詞対尺度を参考に一部修正を加え、30項目を選定し S. D. Scale を作成した。評定段階は 7 段階評定とし、左右に対になる形容

Table 2 一般最終学歴

n=96

区 分	人数	構成割合 %
中 学 校	3	3.1
高等学校	90	93.8
短期大学	1	1.0
大 学	2	2.1
計	96	100.0

Table 3 専門学歴

n=96

区 分	人数	構成割合 %
准看護婦養成所	84	87.5
高等学校衛生看護科	12	12.5
計	96	100.0

詞を置き、中心を「どちらでもない」とし、そこから左右に等間隔で「やや」、「かなり」、「非常に」の順に評価基準を定めた。この基準の中心を 0 点、左に 1 点、2 点、3 点、右に -1 点、-2 点、-3 点と点数化した。

## III. 結 果

### 1. 対象の属性

対象は看護婦 2 年課程定時制学生 1 年生35名中 34名、2 年生35名中34名、3 年生34名中28名の計 96名。回答率は92.3%であった。

#### 1) 年齢、性別

Table 1 に示すように、平均年齢は25.17歳で、

Table 4 現在の勤務状況 n=96

区 分	人数	構成割合 %
勤務している	73	76.0
アルバイト	17	17.7
休 職 中	4	4.2
勤務していない	2	2.1
計	96	100.0

Table 5 現在の勤務施設 n=90

区 分	人数	構成割合 %
病 院	68	75.6
有床診療所	15	16.7
無床診療所	7	7.8
計	90	100.1

Table 6 現在勤務している診療科 n=90

診療科区分	人数	構成割合 %
内 科	20	22.2
精 神 科	13	14.4
産婦人科	11	12.2
脳神経外科	6	6.7
外 科	3	3.3
整形外科	1	1.1
混 合	12	13.3
そ の 他	24	26.7
計	90	99.9

年齢構成は19～45歳の範囲であった。性別は、96名中男性が1年生4名、2年生3名、3年生2名の計9名（9.4％）で、女性が87名（90.7％）であった。

## 2) 学歴 (1)一般学歴 (2)専門学歴

一般最終学歴は、Table 2に示すように、90名（93.8％）が高等学校卒業で、3名（3.1％）が中学校卒業、1名（1.0％）が短期大学卒業、2名

（2.1％）が大学卒業であった。また Table 3に示すように、専門学歴である准看護婦課程の卒業就学機関は84名（87.5％）が准看護婦養成所、12名（12.5％）が高等学校衛生看護科であった。

## 3) 2年課程入学後の勤務状況

現在の勤務状況を Table 4に示した。2年課程入学後もアルバイトを含め、90名（93.7％）が就業しているいわゆる勤労学生であり、休職中もしくは勤務していない学生はわずか6名（6.3％）であった。現在の勤務施設と診療科を Table 5と Table 6に示した。勤務している学生のうち、68名（75.6％）が病院、15名（16.7％）が有床診療所、7名（7.8％）が無床診療所に勤務している。勤務している診療科は、内科が最も多く20名（22.2％）、次いで精神科13名（14.4％）、2診療科以上の混合が12名（13.3％）、産婦人科11名（12.2％）の順であった。

Table 7 看護職決定時期 n=96

時 期	人数	構成割合 %
小学校入学前	7	7.3
小 学 生	14	14.6
中 学 生	27	28.1
高 校 生	29	30.2
高等学校卒業後	14	14.6
そ の 他	5	5.2
計	96	100.0

Table 8 看護職選択理由 n=96

理 由	人数	構成割合 %
資格取得のため	18	18.8
社会に貢献したい	16	16.7
身近にいた看護職の影響	12	12.5
自分の病気、入院体験	11	11.5
身近に病院がいたから	11	11.5
周囲の薦め	10	10.4
看護職に向いている	8	8.3
給料がよい	1	1.0
そ の 他	9	9.4
計	96	100.1

Table 9 2年課程への進学理由

n=96

## 2. 職業意識

## 1) 看護職を決定した時期

看護職を決定した時期は Table 7 に示すとおり、29名 (30.2%) が「高校生」、27名 (28.1%) が「中学生」、「小学生」および「高等学校卒業後」がそれぞれ14名 (14.6%) であった。

## 2) 看護職を選択した理由

看護職を選択した理由は、Table 8 に示すとおり、「資格取得のため」が18名 (18.8%) で最も多く、次いで「社会に貢献したい」が16名 (16.7%)、「身近にいた看護職の影響」が12名 (12.5%)、「自分自身の病気や入院体験から」と「身近に病人がいたから」がそれぞれ11名 (11.5%) であった。

## 3) 2年課程へ進学した理由

2年課程へ進学した理由は、Table 9 に示すとおり、「准看護婦よりもさらに学習したい」をあげた学生が39名 (40.6%) と最も多く、次いで「看護婦資格取得のため」が32名 (33.3%) であった。

## 3. 就業経験

## 1) 2年課程入学前の就業経験

2年課程入学前の就業経験について、「准看護婦としての経験を有する」、「看護助手のみの経験を有する」、「他職種経験を有するのみ」、「勤務した経験なし」の4つのカテゴリーにわけて集計した結果が Table 10 である。47名 (49.0%) が准看護婦としての経験をもち、41名 (42.7%) が看護助手のみの経験をもっていた。また、他職種経験のみをもつ学生が3名 (3.1%) おり、勤務経験がまったくない学生は5名 (5.2%) であった。

## 2) 准看護婦として就業した期間

前記1) の2年課程入学前の就業経験のなかで、准看護婦としての経験を有する学生47名について、その就業期間を、「3年未満」、「3～5年未満」、「5～10年未満」、「10年以上」の4つの区分に分けて集計した結果は Table 11 である。3年未満が26名 (55.3%) で、3～5年未満が7名 (14.9%)、5～10年未満が8名 (17.0%)、10年以上が

理 由	人数	構成割合 %
准看護婦よりもさらに学習したい	39	40.6
看護婦資格取得のため	32	33.3
将来的に保健婦・助産婦資格取得のため	9	9.4
周囲の薦め	7	7.3
准看護婦制度廃止が叫ばれているから	3	3.1
准看護婦よりも給料が高い	1	1.0
その他	5	5.2
計	96	99.9

Table 10 2年課程入学前の就業経験 n=96

職 種	人数	構成割合 %
准看護婦経験あり	47	49.0
看護助手経験のみ	41	42.7
他職種経験のみ	3	3.1
勤務経験なし	5	5.2

計	96	100.0
---	----	-------

Table 11 准看護婦としての就業期間 n=47

期 間	人数	構成割合 %
3年未満	26	55.3
3～5年未満	7	14.9
5～10年未満	8	17.0
10年以上	6	12.8
計	47	100.0

6名 (12.8%) であった。

## 4. 「看護婦」のイメージ

## 1) S. D. Scale による「看護婦」のイメージ

Figure 1 は、S. D. Scale による30項目の形容詞対尺度を用いて測定した「看護婦」のイメージプロフィールである。30項目のうち、中心の0点から±1.0以上の項目は15項目あり、その平均値の比較から「現実的」、「深みのある」、「特色のある」、「複雑」、「強い」、「はりつめた」、「動的」、「洗練された」、「広い」、「清潔」の順にイメージしていた。また、Figure 2～Figure 4 は学年別のイメージプロフィールである。1年生と2年生の平均値の差

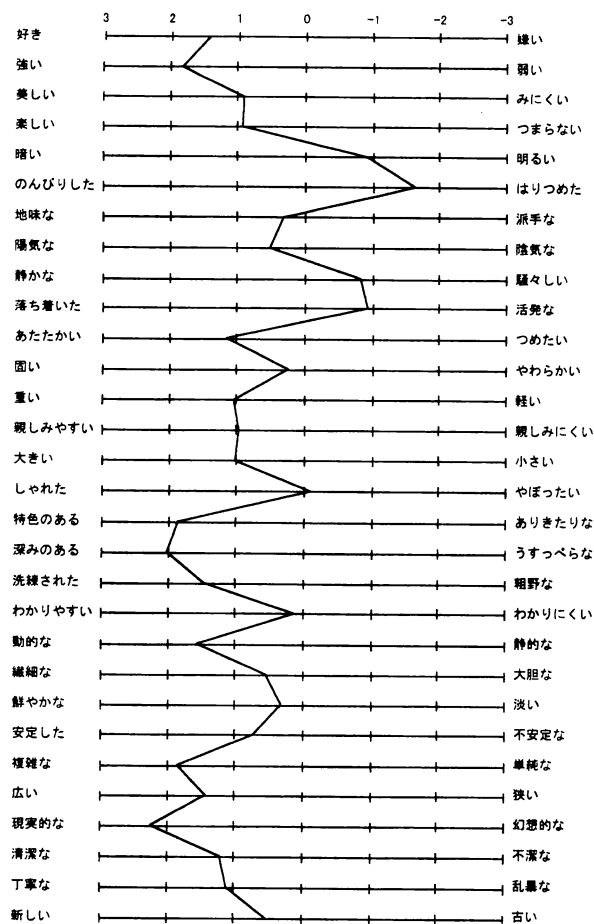


Figure 1 S. D. Scaleによる「看護婦」のイメージ  
プロフィール

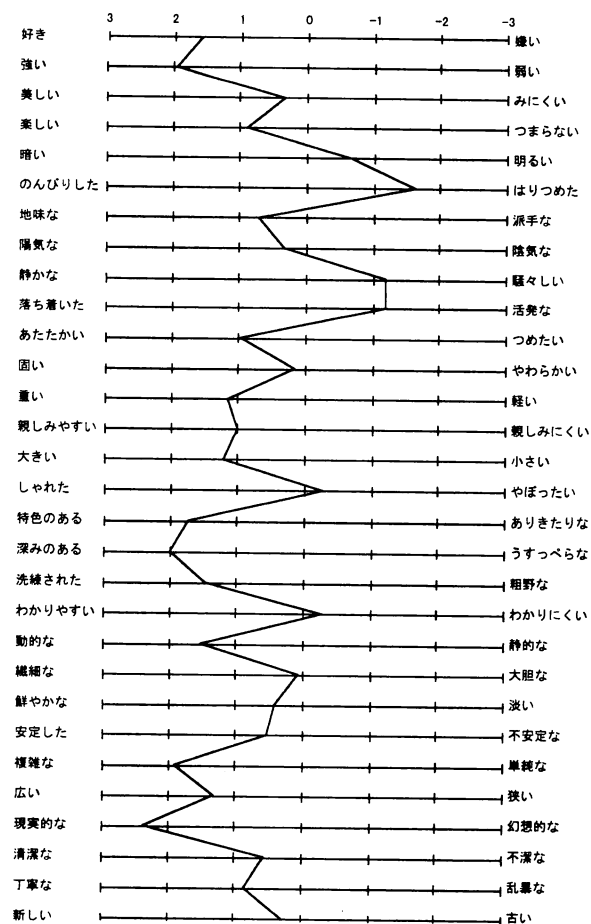


Figure 2 S. D. Scaleによる「看護婦」のイメージ  
プロフィール — 1年生 —

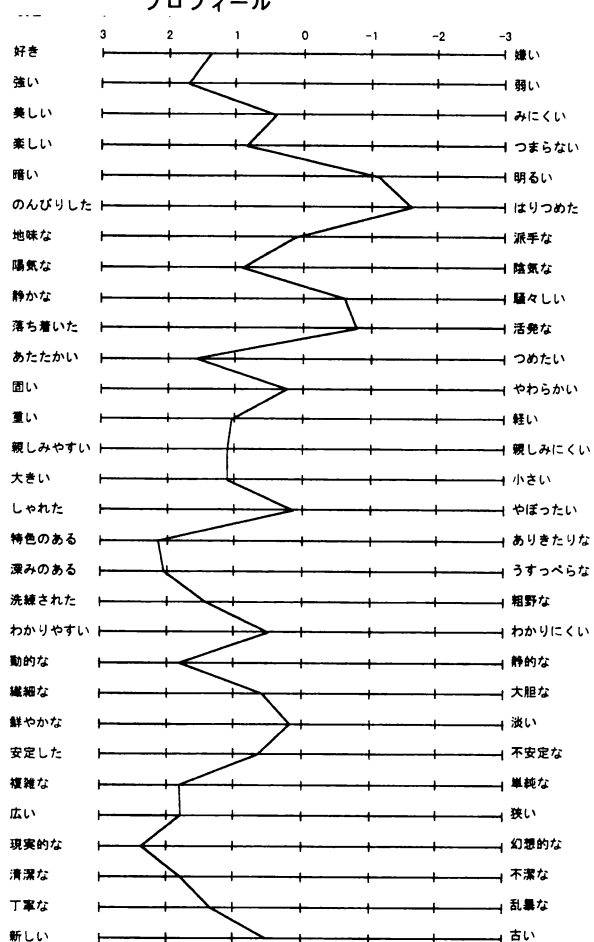


Figure 3 S. D. Scaleによる「看護婦」のイメージ  
プロフィール — 2年生 —

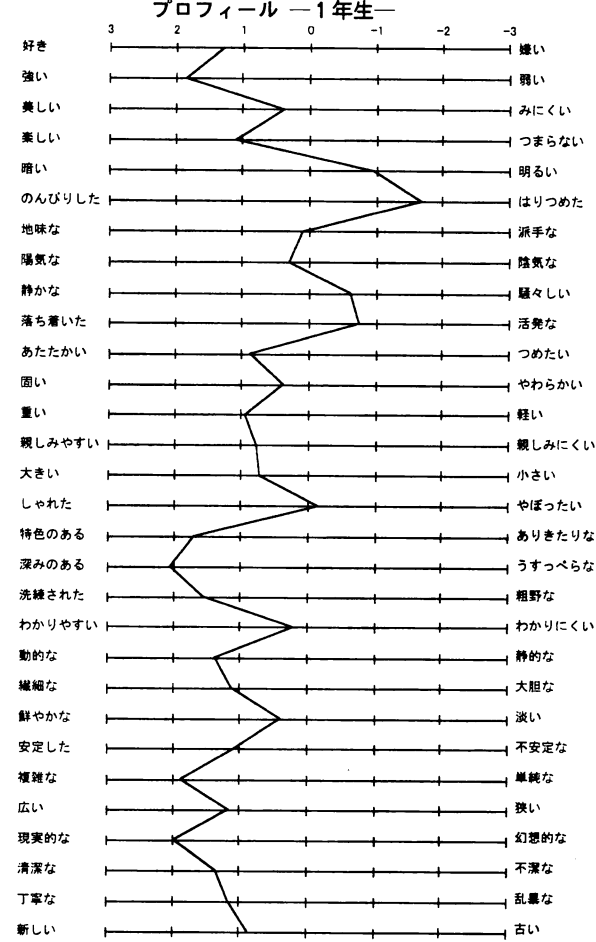


Figure 4 S. D. Scaleによる「看護婦」のイメージ  
プロフィール — 3年生 —

が大きいのは「清潔－不潔」の項目で、2年生の方が「清潔」とイメージしており、1%水準で有意差がみられた。そのほか「陽気な－陰気な」、「わかりやすい－わかりにくい」、「静かな－騒々しい」の項目において、2年生の方が「陽気な」、「静かな」、「わかりやすい」、とイメージしており、5%水準で有意差がみられた。1年生と3年生では、「繊細な－大胆な」の項目において、3年生の方が「繊細」とイメージし、5%水準で有意差がみられた。

一方、属性（年齢、性別、学歴、2年課程入学後の勤務状況）や、職業意識（看護職を決定した時期、看護職を選択した理由、2年課程へ進学した理由）と「看護婦」のイメージとの関連については、有意差がみられなかった。

## 2) S. D. Scale による就業経験別にみた「看護婦」のイメージ

就業経験を4つのカテゴリーに分け、それぞれの「看護婦」のイメージとの検定をした結果がTable 12であり、15項目に有意差がみられた。以下、それぞれのカテゴリーとの関連について述べる。

(1)准看護婦としての就業経験をもつ学生と、助

手のみの経験・他職種のみ経験・及び勤務経験の無い学生との比較

准看護婦としての就業経験をもつ学生と他職種のみ経験の学生との比較では、「わかりやすい－わかりにくい」の項目において、准看護婦としての就業経験をもつ学生の方が「わかりやすい」とイメージしており、1%水準で有意差がみられた。「清潔な－不潔な」、「静かな－騒々しい」、「しゃれた－やばったい」の項目においては、准看護婦としての就業経験をもつ学生の方が「清潔な」、「静かな」、「しゃれた」とイメージしており、5%水準で有意差がみられた。また、准看護婦としての就業経験をもつ学生と就業経験のまったくない学生との比較では、「鮮やかな－淡い」、「洗練された－粗野な」、「深みのある－うすっぱらな」の項目において、就業経験のまったくない学生の方が「鮮やかな」、「洗練された」、「深みのある」とイメージし、0.1%水準で有意差がみられた。「大きい－小さい」の項目においては、就業経験のない学生の方が「大きい」イメージをもっており、1%水準で有意差がみられた。

(2)助手経験のみの学生と、他職種のみ経験及び勤務経験のない学生との比較

助手経験のみの学生と他職種のみ経験の学生との比

Table 12 就業経験別「看護婦」のイメージ検定

形容詞対尺度		准看護婦経験あり			助手経験のみ		他職種のみ
		助手のみ	他職種	勤務経験なし	他職種	勤務経験なし	勤務経験なし
楽しい	つまらない				*	*	*
暗い	明るい					*	
のんびりした	はりつめた						*
陽気な	陰気な					**	
静かな	騒々しい		*		*		
落ち着いた	活発な				*		
大きい	小さい			**		***	*
しゃれた	やばったい		*		***	*	*
深みのある	うすっぱらな			***		***	
洗練された	粗野な			***		***	
わかりやすい	わかりにくい		**		**		
鮮やかな	淡い			***		***	*
現実的な	幻想的な				***	***	
清潔な	不潔な		*		***		*
新しい	古い					*	*

\*p<0.05 \*\*p<0.01 \*\*\*p<0.001

較では、「しゃれたーやぼったい」、「現実的なー幻想的な」、「清潔なー不潔な」の項目において、他職種のための学生の方が「やぼったい」、「現実的な」、「不潔な」イメージをもっており、0.1%水準で有意差があり、「わかりやすいーわかりにくい」の項目においては、他職種のみの学生の方が「わかりにくい」とイメージし、1%水準で有意差がみられた。「楽しいーつまらない」、「静かなー騒々しい」、「落ち着いたー活発な」の項目においては、他職種のみの学生の方が「楽しい」、「騒々しい」、「活発な」とイメージし、5%水準で有意差があった。また、勤務経験のない学生との比較では、「大きいー小さい」、「深みのあるーうすっぺらな」、「洗練されたー粗野な」、「鮮やかなー淡い」、「現実的なー幻想的な」の5項目において、勤務経験のない学生の方が「大きい」、「深みのある」、「洗練された」、「鮮やかな」、「現実的な」イメージをもっており、0.1%水準で有意差がみられた。「陽気なー陰気な」の項目では、助手経験のある学生の方が「陽気な」イメージをもっており、1%水準で有意差がみられた。「楽しいーつまらない」、「暗いー明るい」、「しゃれたーやぼったい」、「新しいー古い」の4項目においても5%水準で有意差があり、勤務経験のない学生の方が「楽しい」、「明るい」、「しゃれた」、「新しい」イメージをもっていた。

### (3)他職種経験のみの学生と勤務経験のない学生

### との比較

他職種経験のみの学生と勤務経験のない学生との比較では、「楽しいーつまらない」、「のんびりしたーはりつめた」、「大きいー小さい」、「しゃれたーやぼったい」、「鮮やかなー淡い」、「清潔なー不潔な」、「新しいー古い」の7項目に5%水準で有意差があり、勤務経験のない学生の方が「楽しい」、「のんびりした」、「大きい」、「しゃれた」、「鮮やかな」、「清潔な」、「新しい」イメージをもっていた。

### 3) S. D. scale による准看護婦としての就業期間別にみた「看護婦」のイメージ

准看護婦としての経験をもつ学生の就業期間を4区分に分け、それぞれの「看護婦」のイメージとの検定をした結果がTable 13であり、10項目に有意差がみられた。以下、それぞれの区分との関連について述べる。

#### (1)3年未満と、3～5年未満・5～10年未満及び10年以上の経験をもつ学生との比較

3年未満と3～5年未満の比較では、「深みのあるーうすっぺらな」、「広いー狭い」の項目において、3～5年未満の方が「うすっぺらな」、「狭い」イメージをもち、1%水準で有意差がみられた。「美しいーみにくい」の項目では、3～5年未満の方が「みにくい」イメージをもっており、5%水準で有意差があった。また、5～10年未満

Table 13 准看護婦としての就業期間別「看護婦」のイメージ検定

形容詞対尺度		3年未満			3～5年未満		5～10年未満
		3～5年未満	5～10年未満	10年以上	5～10年未満	10年以上	10年以上
美しい	みにくい	*					
楽しい	つまらない			**			*
暗い	明るい		**				*
落ち着いた	活発な		***		*		
しゃれた	やぼったい			*			
深みのある	うすっぺらな	**		*			
複雑な	単純な			***			
広い	狭い	**	*				
現実的な	幻想的な			**			
清潔な	不潔な					*	

\*p<0.05 \*\*p<0.01 \*\*\*p<0.001

との比較では「落ち着いた－活発な」、「暗い－明るい」、「広い－狭い」の項目で、5～10年未満の方が「落ち着いた」、「暗い」、「狭い」とイメージしており、それぞれ0.1%、1%、5%水準で有意差がみられた。さらに10年以上との比較では、「複雑な－単純な」の項目において、10年以上の方が「単純」とイメージし、0.1%水準で有意差があり、「楽しい－つまらない」、「現実的な－幻想的な」の項目で、10年以上の方が「つまらない」、「幻想的」とイメージし、1%水準で有意差があった。また、「しゃれた－やぼったい」、「深みのある－うすぺらな」の項目において、5%水準で有意差があり、10年以上の方が「うすぺら」である一方、「しゃれた」というイメージをもっていった。

#### (2) 3～5年未満と5～10年未満及び10年以上の経験をもつ学生との比較

3～5年未満と5～10年未満との比較では、「落ち着いた－活発な」の項目に5%水準で有意差があり、5～10年未満の方が「落ち着いた」とイメージしていた。また、10年以上との比較では、「清潔な－不潔な」の項目に5%水準で有意差があり、10年以上の方が「清潔」とイメージしていた。

#### (3) 5～10年未満と10年以上の経験をもつ学生との比較

5～10年未満と10年以上との比較では、「暗い－明るい」、「楽しい－つまらない」の項目に5%水準で有意差があり、10年以上の方が「暗い」、「つまらない」とイメージしていた。

## IV. 考 察

### 1. 対象の属性

一般に2年課程の看護学生は、他の課程と比較して、平均年齢が高く、年齢構成の範囲も広いといわれている<sup>9) 10) 11) 12)</sup>が、今回の調査でも同様の結果が得られた。また、ほとんどの学生が高等学校卒業の一般学歴をもち、中には短期大学、大学卒業後に入学してきている学生もわずかながらいた。かつて、准看護婦課程には、経済的理由で高校進学を断念し、就業しながら資格を取得する者も多かったという。しかし、高度経済成長期を経て日本が「豊かな時代」となった今、准看護婦課程入学生のほとんどが高校

卒業の一般学歴を有し、経済的理由で就業しながら就学するというのもはや必須条件ではないといえる。むしろ、「3年課程に合格できなかったから」という理由で、准看護婦学校へ入学し、准看護婦課程卒業後すぐに2年課程へ進学する学生が増加している。

また、2年課程定時制の看護学生は、就学と就業を両立している割合が高いといわれている<sup>13) 14) 15)</sup>が、今回の調査においても同様の結果が得られ、ほとんどの学生が勤労学生であった。

以上のことから、2年課程定時制の看護学生は、他の課程と比較して、背景が多様であるといえる。年齢の幅が広く、学歴も様々であること、ほとんどの学生が入学後も就業しながら就学していること等から、多様な生活歴やライフスタイル、価値観の違いを考慮した指導のあり方について、充分検討する必要がある。日本看護協会が調査した結果<sup>16)</sup>によると、勤労学生が抱えている問題として、「自分の時間がとれない」や「睡眠不足」と答える者が多い。学校をやめようと思った理由も、2年課程定時制の学生の場合には、圧倒的に「就業と就学との両立の限界」、「体力の限界」等をあげている者が多い。このように勤労学生が持つ問題は切実で、就業と就学との両立がいかに大変かがわかる。さらに、不規則な生活や時間的余裕の不足に加え、カリキュラムの過密性も、一層学生の問題を深刻なものにしているようである。先のカリキュラム改正のねらいは「ゆとり」の追及が大きな焦点となったが、2年課程定時制教育の実態は、指定規則に定められた時間数を消化するのが精一杯で、このねらいには到達していないのが現状といえる。しかし、本来「看護」という仕事のもつ特性から考えれば、人間理解の土台となるような教養に目をむけたり、感性の向上がはかれるような「ゆとり」を持つことも大切であると考ええる。

### 2. 職業意識

看護職を決定した時期は、3分の1が「高校生」である。また看護職を選択した理由としては、「資格取得」、「社会に貢献したい」等をあげている学生が多い。さらに2年課程への進学理由に約4割の学生が「准看護婦よりもさらに学習したい」をあげ、次いで約3割の学生が「看護婦資格取得のため」をあげている。2年課程の学生は、他の課程に比べ就



学意欲が旺盛であるといわれている<sup>17)18)19)</sup>が、今回のこの結果からも、明確な資格取得という目的意識と、向学心をもって進学しているということがわかる。

こうした学生の進学への意欲を支え、資格取得という自己実現をめざして、教育環境の整備をはかるとともに、社会が看護職に期待するニーズに対応できるよう、質の向上に向けて教育内容を充実させていく必要がある。

### 3. 就業経験

2年課程入学前の就業経験は、約半数の学生が准看護婦として働いた経験を持っており、看護助手としての就業経験をもつ学生も約4割おり、ほとんどの学生が入学前に医療機関での就業経験があることになる。また准看護婦としての就業期間は、3年未満から10年以上の学生まで様々であるが、学校での学習に先行して就業経験を有するということは、看護に対し、より現実的で具体的な視野をもっている学生が多いともいえる。そうした視野は、学習の場において教授したことをイメージしやすいという点から、知識や技術の習得を助けるうえで効果があると考えられる。しかし反面、臨床における既習の概念にとらわれやすく、思考に広がりや柔軟性が欠けがちであり、時には学生自身のなかで大きな混乱が生じる場合もある。特にこの傾向は、就業経験の長い学生の方がより顕著である。従って、このような学生への教育は、臨床での様々な現象の意味や既習の知識や技術を確認しながら、学校での学びと重ねあわせて整理・再構築し、さらに発展していけるよう<sup>20)</sup>、意図的な関わりが必要であると考ええる。

一方、就業経験のある学生は、未経験者に比べて学習意欲を喪失することが少なく安定している<sup>21)</sup>といわれている。今回の調査においても、学習の「意欲」となる資格取得という目的と、旺盛な知的好奇心が内発的動機付けとなって入学してきた学生が多いといえるので、そうした学生への指導は、「意欲」を引き出し、さらに伸ばすことができるようなものでなくてはならない。そのためには、個々の学生がもつ背景を考慮しながら、客観的に現象を構造化したり対象化していけるような教育の必要性があると考ええる。

### 4. 「看護婦」のイメージ

今回調査した学生のもつ「看護婦」のイメージは、

「現実的」で「深み」があり、「特色のある」、「洗練された」、「強く」、「広い」、「清潔」、「複雑」、「動的」、「はりつめた」ものである。このようなイメージは、入学前の就業経験や日々の臨床経験を通じて想起されたものであると考えられる。また、学年別のイメージ変化で、1年生に比べ2年生の方が「清潔」とイメージしていることは、学習による効果と考えられ、「陽気」、「わかりやすい」とイメージしたことは、仕事や現在のライフスタイルにも慣れつつある様子が見えてくる。また3年生が、「繊細」のイメージを強くもっていることは、実習による1対1の患者－看護者関係をとおして、人を対象とした「看護」という仕事の特性を意識し始めた結果と言える。

次に、就業経験別にみた「看護婦」のイメージでは、准看護婦としての就業経験をもつ学生は、他職種のみの学生に比べて「わかりやすい」、「清潔」、「静か」、「しゃれた」とイメージしている。これは現実の体験をとおしてのイメージと推測され、看護職であることの誇りや充実感が「しゃれた」というイメージになったのではないかと考える。また、就業経験のない学生が「鮮やか」、「洗練された」、「深みのある」、「大きい」イメージをもっていることは、看護という専門職への憧れと期待が感じられる。一方、助手経験のみの学生に比べ、他職種のみの学生や就業経験のない学生がイメージした「現実的」、「不潔」、「洗練された」、「鮮やか」等は、想像的・感覚的なものだといえる。

次に、准看護婦としての就業期間別にみた「看護婦」のイメージは、3年未満と比べて3～5年未満では、「うすっぺら」で「狭い」とイメージしていることは、ある程度の実務経験を重ねて仕事にも慣れた結果、当初の期待や希望が薄れたためと考えられる。また、5～10年未満で、「落ち着いた」、「暗い」等とイメージしたことは、仕事の定着と、新鮮な感動や気づきの減少を表し、10年以上では、「単純」で「つまらない」とさえイメージしており、これはさらにこの傾向が強くなった結果といえる。

このように、就業経験による「看護婦」のイメージへの影響は明確であった。ある事柄に対する評価の結果が情緒的に想起されたものがイメージである<sup>22)</sup>といわれるとおり、イメージが生じる背景には、それに先行する何らかの事柄が存在すると考えられる。今回の調査では、就業経験がその事柄で、それと自分との関係について評価した結果が「看護婦」

のイメージとなって想起されたものだといえる。またイメージは、それを生じさせている背景となるものを客観的に観察し捉えることにより、事柄と自分との関係の持ち方を調整することが可能で<sup>23)</sup>、ここにイメージ化することの意義がある。こうしたことをふまえ、今後、教育内容を充実させ、より望ましいイメージへの変容をはかる必要性がある。

## V. ま と め

本研究は、看護学生の「看護婦」のイメージ形成に影響をおよぼす要因を明らかにするため、先行する就業経験とイメージとの関連について、看護婦2年課程定時制の学生96名を対象に調査し、以下の結果を得た。

1. 2年課程定時制の学生104名中、96名（回答率92.3%）の平均年齢は高く、25.17歳で、年齢構成も19～45歳と範囲が広い。
2. 一般最終学歴は、93.8%が高等学校卒業で、専門学歴として卒業した准看護婦課程の就学機関は、87.5%が准看護婦養成所であった。
3. 2年課程入学後もアルバイトを含め93.7%の学生が就学と就業とを両立しており、75.6%が病院、16.7%が有床診療所、7.8%が無床診療所に勤務している。勤務する診療科は、内科22.2%、精神科14.4%、2診療科以上の混合13.3%の順である。
4. 看護職を決定した時期は、30.2%が「高校生」、次いで「中学生」、看護職を選択した理由は、「資格取得のため」が18.8%、「社会に貢献したい」が16.7%、「身近にいた看護職の影響」が12.5%であった。
5. 2年課程への進学理由は、40.6%が「准看護婦よりもさらに学習したい」、33.3%が「看護婦資格取得のため」で、学習意欲や資格取得という目的意識が進学の動機となっている。
6. 2年課程入学前の就業経験は、49.0%が准看護

婦として働いた経験を有しており、看護助手としての経験を有する学生も42.7%であった。また准看護婦としての就業期間は、55.3%が3年未満で、10年以上の学生が12.8%であった。

7. S. D. Scale による「看護婦」のイメージは、7段階評定で、中心の0点から±1.0以上の項目は15項目あり、「現実的」、「深みのある」、「特色のある」、「複雑」、「強い」、「はりつめた」、「動的」、「洗練された」等の順でイメージしていた。
8. 学年別にみた「看護婦」のイメージでは、5項目に有意差（ $p<0.05$ ,  $p<0.01$ ）があり、2年生が1年生に比べ、1%水準の有意差で「清潔」とイメージし、3年生が1年生に比べ、5%水準の有意差で「繊細」とイメージしていた。
9. S. D. Scale による就業経験別にみた「看護婦」のイメージは、15項目の形容詞対尺度に有意差（ $p<0.05$ ,  $p<0.01$ ,  $p<0.001$ ）がみられた。
10. S. D. Scale による准看護婦としての就業期間別にみた「看護婦」のイメージは、10項目の形容詞対尺度に有意差（ $p<0.05$ ,  $p<0.01$ ,  $p<0.001$ ）がみられた。

これらのことから、2年課程看護学生の入学前の就業経験が「看護婦」のイメージに影響を及ぼす一要因として関連があることが明らかとなった。今後、こうした学生のもつ背景を考慮した教育環境の整備や、教育内容の充実をはかる必要がある。

## VI. おわりに

看護学生の「看護婦」のイメージ形成に影響を及ぼす要因として、就業経験との関連性について知ることができた。今回は1教育機関における限られた対象数から得られた結果であるため、さらに調査・検討を重ね、より望ましいイメージの変容を期待して、教育の充実をはかる必要がある。最後に調査にご協力いただいた学生諸氏に心より感謝いたします。

## 引用文献

- 1) 正田美智子, 佐々木かほる, 斉藤 基他: 本学生の職業に対する意識調査—第一報—, 群馬県立医療短期大学紀要, 1, 123-135, 1994.
- 2) 永田忠夫: S. D. 法による「看護婦」のイメージ分析, 愛知県立看護短期大学雑誌, 9, 77-86, 1978.
- 3) 永田忠夫: 看護婦という職業を選択した要因について, 愛知県立看護短期大学雑誌, 13, 65-75, 1981.
- 4) 永田忠夫: 看護職員と看護学生の職業観のちがひについて, 愛知県立看護短期大学雑誌, 14, 65-75, 1982.
- 5) 岩下豊彦: SD 法によるイメージの測定, 川島書店, 1985.
- 6) 松村恵子, 青木康子: 看護学生における助産婦志望の背景, 日本助産婦学会誌, 8 (2), 77-80, 1995.

- 7) 井澤方宏, 青木康子, 陣田泰子他: 看護学生の職業に対する意識調査, 川崎市立看護短期大学紀要第1号, 1(1), 1-12, 1996.
- 8) 永田忠夫: 前掲書<sup>2)</sup>
- 9) 佐々木栄子, 名原壽子: 2年課程昼間定時制に通う学生の実態(1), 第24回日本看護学会集録(看護教育), 78-81, 1993.
- 10) 佐々木栄子: 看護婦2年課程入学生の特徴, 看護展望, 19(9), 978-984, 1994.
- 11) 藤田和夫: 進学コース通学生の進路選択に関する調査, 看護教育, 34(8), 608-612, 1993.
- 12) 日本看護協会調査研究室: 看護学生の進路選択に関する調査, 日本看護協会出版会, 37, 1992.
- 13) 佐々木栄子, 名原壽子: 前掲書<sup>9)</sup>
- 14) 藤田和夫: 前掲書
- 15) 日本看護協会調査研究室: 前掲書
- 16) 日本看護協会調査研究室: 前掲書
- 17) 眞田清子: 進学コース発展のためにその重要性和目標, 看護教育, 33(11), 811-817, 1992.
- 18) 高木弘子: 看護婦2年課程教育において何を行うべきか, 看護展望, 19(9), 985-987, 1994.
- 19) 柴田文子: 勤務経験のある看護学生の学習意識構造ー勤務経験の有無による比較からー, 第26回日本看護学会集録(看護教育), 103-105, 1995.
- 20) 眞田清子: 前掲書
- 21) 柴田文子: 前掲書
- 22) 岩下豊彦: 前掲書
- 23) 門前 進: イメージ自己体験法, 誠信書房, 1995.

#### 参考文献

- 1) 末松節子, 小峯公江: 進学生のバックグラウンドを知る, 看護教育, 33(11), 822-825, 1992.
- 2) 竹内千恵子, 小玉正博: 看護専門学校への進路決定要因の分析とそれに基づく学校適応状況の解明, 看護教育, 36(3), 280-285, 1995.
- 3) 村田恵子, 名原壽子: 社会人を経験して入学した看護学生及び准看護婦生徒の実態ー看護職を選択した要因ー, 第25回日本看護学会集録(看護教育), 91-93, 1994.
- 4) 坪井良子: 看護教育2年課程における問題点, 看護 MOOK, 37, 1991.
- 5) 河合隼雄: イメージの心理学, 青土社, 1996.

## Analysis of factors which influence the formation of the image of "the nurse"

Motomi Negishi<sup>1)</sup> Kimiko Kashiro<sup>2)</sup>

### abstract

We made investigation on 96 students of a part-time collage of two-year course of nursing that many students had experience in working before entrance, with the aim of clarifying the relation to experience in working as factors which influence the formation of the image of "the nurse" of students of nursing. With the result that clarified the relation between the formation of the image of "the nurse" and preceding experience in working and we got suggestion about future education.

The findings are as follows;

1. The average age of the students is higher than that of students of other course, and the range of constituent ages is wider.
2. Almost all the students have had general education—that is, they graduated from high school—, and many of them graduated from nursing school as a means to take a course in practical nurses.
3. Almost all the students are what is called working students who have been working after they entered a two-year course.

There are more students who work for hospitals than for clinics. Departments for which they work are internal medicine, psychiatry, mixedness and obstetrics and gynecology in order of numbers.

4. Half of the students decided to be nurse in their high school days or junior high school days.
5. The reasons that the students selected nursing are "to obtain a license", "to contribute to society" and "influence of a nurse they were familiar with" in order of maunders.
6. Most of the reasons that the students entered a two-year course are "to study more not to stay a practical nurse" and "to obtain a nurse's license".
7. As to experience in working before entrance into a two-year course, half of the students has experience in working as a practical nurse. As to period, half of them worked for less than three years and some students did for more than ten years.
8. The image of "the nurse" which was investigated according to experience in working by S.D.Scale showed significant difference in the scale of adjective pairs in fifteen items.
9. The image of "the nurse" which was investigated according to period in working as a practical nurse by S.D.Scale showed significant difference in the scale of adjective pairs in ten items.

**Key Word :** a part-time collage of two-year course

experience in working

Semantic Differential Technique

the image of "the nurse"

the formation of image

---

1) Shonan Collage of Nursing

2) Kawasaki City Collage of Nursing